

# 創建

そうこん

巻頭言／出村克宣・1

卒業研究テーマ・2～3

新任の先生・3

ヨーロッパ研修旅行報告・4～5

卒業設計報告・6

日本建築学会東北支部研究報告会／教室ニュース・7

教職員名簿・8

2008・7・10 VOL.43 NO.1 (通巻126号)

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

アメリカの社会学者と心理学者が、“Lifestyles of health and sustainability”という価値観を持って生活している人々が増えていることを報告し、その頭文字をとって、ビジネス用語として、「LOHAS (ロハス)」が生まれたといわれています。直訳すれば、「健康と持続可能性の暮らし方」となりますが、「心とからだ、そして、地球にやさしい暮らし方」と解釈できます。持続可能性とは地球が永続的に存在することを意味しています。このようなライフスタイルを志向している人々がアメリカやヨーロッパで増えているといわれていますが、このような発想・概念は、古くから、日本文化の中に息づいていたのではないのでしょうか。そのよい例が江戸文化といわれています。

江戸は、その当時、世界有数の大都市でありながら、完全にリサイクル社会の形態を成し、疫病も少なく、寺子屋が発達して識字率が世界最高水準にありました。江戸の美しさは、広重の描いた「名所江戸百景」の浮世絵などからも想像でき、映画にでてくるヨーロッパの下町とは比較にならないほど美しい都市であったことがわかります。その昔、外国の研究者が江戸の街を訪れ、江戸庶民の排泄物を周辺地域の農家で肥料とし、そこで生産された野菜を再び江戸の街で消費するリサイクル社会を見て大変驚き、本国で江戸文化のすばらしさを訴えたという逸話もあります。そのような日本文化のすばらしさに感動して、最近では、ノーベル平和賞受賞者であるケニアのワンガリ・マータイ女史が、「もったいない」を世界に通じる環境標準語にしようとしているといわれます。そこで、ロハスに込められている「心やからだにやさしい」、「地球にやさしい」などの思想や問題意識は、古くから日本文化の中にあり、私たち日本人のDNAにはその情報が記憶されてい

ると考えています。そしてまた、風鈴の奏でる音を聞いて、涼しいと思う心を持つ日本人の感性こそ、21世紀の地球環境問題を解決する糸口になるのではないのでしょうか。

日本人が培ってきた思想や感性を現代社会に生かす手法を見出し、それを具現化することも大学の役割であると思っています。そこで、日本大学工学部では、このような日本人のDNA情報をロハスに置き換えて、「ロハス」をキーワードにした教育・研究活動にチャレンジしています。

「ロハスな工学部」や「ロハスの工学」などの言葉を使いますが、ロハスに込められたライフスタイルを持つという意味で「ロハスな・・・」、また、ロハスに込められたライフスタイルのための（それに役立つ）という意味で「ロハスの・・・」を使い分けています。

## ロハスな工学部

教授 出村 克宣

ひとが集まって家族を構成し、その集合体として社会が形成されます。建築学は「ひと」に最も近い工学分野です。そして、建築を学ぶ目的は、自然環境を考慮した上での安全・快適で、心豊かな、活気あふれる生活環境の提供であり、その生活は住む・余暇・教育・労働などから成り立っています。そのための空間と器の創造・構築、その集合体としての街や都市の形成・環境整備の手法を学ぶことが建築学に求められます。このような建築学はまさに「ロハスの工学」の実践の場です。

さて、そのための工学の学び方について考えるとき、技術者倫理の重要性を指摘することができます。最近話題になった耐震偽造の問題をみなさんはどのようにとらえているで

しょうか。広辞苑には、「倫理」とは、「人倫のみち、実際道徳の規範となる原理。道徳。」とあります。そのような倫理観はどうしたら身につくのでしょうか、それは、本物を知ることから始まると思います。ものの本質を知っていれば、越えてはならない一線を理解できるからです。

一時期、ローテクとハイテクという言葉が流行したことがあります。これは、low technologyとhigh technologyを日本語に置き換えた言葉ですが、果たして、technologyにlow (低い)とhigh (高い)が存在すると思いますか。例えば、おばあちゃんがつくるおいしい味噌汁の味、その極意を聞くと、味噌汁をつくる時、泡が一つでたら火を止めなさいと教えてくれました。その意味を探ると、味噌汁を煮詰めすぎると、味噌のなかに棲みついているからだにやさしい微生物や酵素の効果が損なわれることになるということです。これは、まさにハイテクであり、おばあちゃんは微生物学者顔負けの本物を知っていたこととなります。そして、そのような本物の伝承は建築学の中にも存在しています。同じ素材と調理器具を持つ料理店が二つあり、いつも、片方の料理店に多くの客が集まるといふとき、その違いはなんだろうかと考えてみます。素材の本質を知り、その日の天候を読み、お客の顔色を見て、調理具合を微妙にかえると聞いたことがあります。冷めてもおいしいお弁当やおにぎり、本物を知っているひとがつくってくれたからだ気づくことが大切です。そして、おばあちゃんの味噌汁、おいしいお弁当やおにぎりのもう一つの隠し味はビタミン「愛」ではないのでしょうか。

学生諸君も、建築学の本質を学び、ビタミン愛を隠し味にするような、人にやさしい、地球にやさしい建築技術者を目指してほしいと思います。(工学部長)

# 卒業研究テーマ一覧

## 構造・材料系

### ■構造

浅里和茂 教授〔論文〕

1. 鋼構造部材の簡易型継手の開発に関する研究
2. 鋼構造建築物の耐震診断手法に関する研究
3. 鋼構造建築物の生産管理に関する研究
4. 鉄筋コンクリート建物の耐震診断に関する研究
5. 有限要素法による弾塑性解析法に関する研究
6. 構造メディア教材の開発に関する研究

倉田光春 教授〔論文〕

1. 知的構造フォルムに関する研究
2. 知的構造解析法に関する研究
3. 地盤・建物の地震時挙動に関する研究
4. 空間構造(シェル・立体構造)に関する研究
5. 構造材料に関する研究
6. 建築における情報技術利用に関する研究
7. その他

千葉正裕 教授〔論文〕

日比野巧 助手〔論文〕

1. 建物の近似振動解析法に関する研究
2. 情報研究棟およびその周辺地盤における地震動観測
3. 細長い平面形を有する建物の多点常時微動測定
4. 郡山市域の地盤および建物の振動性状に関する研究
5. 建物・杭・地盤連成振動系解析に関する研究
6. 各種構造解析プログラムの開発

G・ブントラ・ステンリー 准教授〔論文〕

1. 構造フォルム(形態・最適化アルゴリズム)に関する研究
2. 最先端構造解析法(粒子・メッシュフリー・不連続体)に関する研究
3. 地盤・建物の地震時挙動(連成シミュレーション)に関する研究
4. 構造材料(粘弾塑性・弾塑性)に関する研究
5. 建築における情報技術利用(シミュレーションによる検証)に関する研究

野内英治 専任講師〔論文〕

1. 空間構造に関する研究
2. 個別要素法を地要した歩行者の動線シミュレーションに関する研究
3. 構造物の崩壊解析に関する研究
4. 各種プログラミング言語を用いた構造解析ソフトウェアの開発
5. 地盤と建物の相互作用に関する研究
6. 耐震設計法に関する調査・研究

### ■材料

出村克宣 教授〔論文〕

1. 繊維補強ポーラスコンクリートの開発
2. 屋上緑化用軽量ポーラスコンクリートの開発
3. 竹補強セメントモルタルの開発
4. 垂鉛スラグのコンクリート用骨材としての有効利用
5. コンクリートのひび割れ制御技術の開発
6. 住宅の断熱改修システムの開発

サンジェイ・バリーク 准教授〔論文〕

1. 高強度コンクリートおよび高強度鉄筋を用いた柱・梁接合部に関する実験・解析
2. RC構造物の耐震補強に関する実験・解析
3. 簡易剛性試験装置を用いた各種コンクリートの応力度-ひずみ度特性および破壊解析
4. 建築用内装材・外装材の防火性能
5. 自己修復型(インテリジェント)コンクリート
6. 防せい剤による鉄筋コンクリート構造物耐久性改善
7. インド歴史的石造建造物・インド住宅の調査研究

## 計画・環境系

### ■環境工学・建築設備

濱田幸雄 教授〔論文〕

1. 高性能遮音構造の開発
2. 変動騒音の評価方法に関する研究
3. サウンドスケープに関する研究
4. 避難施設の脆弱性評価方法に関する研究
5. 重量床衝撃音の評価方法に関する研究

八町雅康 専任講師〔論文〕

1. LANDSATデータ利用に関する研究
2. AMeDASデータのデータベース化に関する研究
3. ネット気象台の管理と可視化に関する研究
4. 設備用デジタル教材の開発
5. 設備施工現場に関する調査研究

### ■建築計画・設計

若井正一 教授〔論文・設計〕

- 〔論文〕
1. 人間の行動特性からみた安全性や快適性の研究
  2. 人体動作寸法の生活スペースへの応用研究
  3. 人間の感覚尺度に関する人間工学的研究
  4. 各種建築物のインテリア構成方法に関する研究
  5. 建築・インテリアの設計方法に関する研究
  6. 建築・インテリア関連の資格職能に関する研究
- 〔設計〕
1. 意外性のある空間の提案
  2. その他(学内外のコンペ課題を含む)

松井壽則 准教授〔論文・設計〕

〔論文〕

【住居系】

- 1) 住宅改修・改造(リフォーム)に関する研究
- 2) 公営集合住宅に関する調査研究
- 3) 住宅団地の再生並びに更新に関する調査研究

【施設系】

- 1) 通所型在宅サービス提供施設に関する調査研究
- 2) 特別養護老人ホーム・介護型老人保健施設の計画に関する研究
- 3) 保育園・幼稚園の計画に関する研究
- 4) 特殊学級、養護学校に関する調査研究

【地域系・その他】

- 1) 安積開墾の耕地と宅地に関する調査研究
  - 2) 児童・生徒に対する建築教育の可能性に関する実践研究
- 〔設計〕 上記テーマに関する設計

## 新任の先生

非常勤講師 渡辺 宏

担当科目：建築設計演習Ⅲ



日本大学工学部の皆様はじめまして。私は株式会社関・空間設計という設計事務所にて、東北を中心に、主として公共施設の設計・監理を行ってまいりました。地域でこれまで大切にされてきた「もの」や「こと」を引き継ぎ、今と未来に新たな価値をつくることを目指した「継承と創造」をキーワードとして活動してきました。

この度、設計演習の非常勤講師の機会を受け、その責任の重さを感じています。

大学は多くの「人」と「知」に出会う大切な場です。今回の機会を得て、日本大学の皆様との出会いを楽しみにしているとともに、これからも大切にしていきたいと考えています。また建築を学ぶ皆さんには、これまで先達が築いてきた建築文化の継承・発展と、安全で、快適で、美しい地域環境の創出が求められます。そのために重要なことのひとつが「感動する心」と人々を「感動させる力」です。

設計演習ではこれまでの実務の経験を生かしながら、これから学生の皆さんと一緒に感動と出会いのための時間を共有していきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひします。

非常勤講師 富松 太基

担当科目：建築企画



2008年4月より4年生を対象に「建築企画」を講義しています。久しぶりにこのキャンパスに戻ってきました。以前は3年生の設計製図を担当していたのですが、今回は私が実務として経験してきたものをベースに、設計以前のものを教えて、皆さんの将来のお役に立てればと思います。

私は、日本設計という組織設計事務所にて「東雲プロジェクト」など様々なものに関係しての建築生産の川上から川下までの都市規模のものから、個人的には戸建住宅まで多くの経験を持っています。また防災・防火の分野では「アトリウム」をはじめ、多くの先進的な技術開発をリードしてきたと自負しております。これも紹介したいと思います。

学生諸君には特に、デザイン（意匠）というものの底に流れる、人間的な快適性や安全性、人々とのふれあいの空間の創造と技術・哲学というようなものをつかんでいただければ幸いです。時には厳しく社会や経済の規制・荒波に耐えるようなものを知識として教え、時には夢についても大いに語れたらと思います。また今住んでいるところでも、建築家仲間とまちづくりの活動などに参加して「コミュニティ・アーキテクト」を目指しています。ぜひ皆さんにも地に着いた社会人となることを期待します。

### 市岡 綾子 専任講師〔論文・設計〕

1. 居住空間、住環境に関する研究
2. 学校施設、学習環境に関する研究
3. 生活空間における居場所形成に関する研究
4. 子どもの環境行動に関する研究
5. 空間イメージ・空間認知に関する研究
6. 廃校施設等の地域施設に関する研究

### 浦部 智義 専任講師〔論文・設計〕

〔論文〕

1. 各種施設の建築計画・建築空間に関する研究
2. 居住空間の建築計画に関する研究
3. 環境的側面から見た、建築・都市空間や施設計画のあり方に関する研究

〔設計〕 何らかの説得力のある提案

### ■都市計画・設計

#### 三浦 金作 教授〔論文・設計〕

〔論文〕

1. 広場の研究
2. 経路探索の研究
3. 街路景観の研究
4. 都市公園の研究
5. オープン・スペースの研究
6. 都市景観の研究
7. 西欧都市構造の研究

〔設計〕 都市デザイン・まちづくり・建築設計

### 土方 吉雄 准教授〔論文・設計〕

1. 都市の土地利用に関する研究
  - 1) 土地利用の更新過程
  - 2) 用途地域制
  - 3) 中心市街地
  - 4) 都市マスタープラン
2. 住宅・居住環境整備に関する研究
  - 1) 都心居住
  - 2) 環境共生住宅地
  - 3) 子どもの遊び環境
  - 4) 居住地の防犯設計
  - 5) 住宅マスタープラン・HOPE計画
  - 6) 街並み景観ワークショップ
  - 7) 近代化遺産とまちづくり
  - 8) 市街地整備事業の評価手法
  - 9) 住宅需給
3. 都市設計・まちづくり・建築設計

### ■建築史

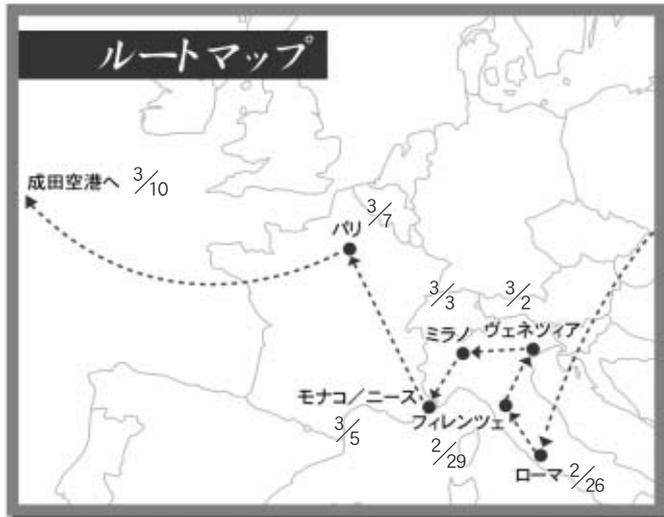
#### 狩野 勝重 教授〔論文・設計〕

1. 近世社寺建築の調査と研究
2. 東北地方における棟札調査
3. 文化的資産を活用した環境整備計画
4. 日本的都市のアイデンティティについて
5. 地籍図の語る史的意味合
6. 自立型環境共生集落の形勢プロジェクト
7. その他、町づくりなど

## 第37回工学部ヨーロッパ研修旅行に参加して

大学院修士課程1年 三浦 泉

大学生最後の春休みに、第37回ヨーロッパ研修旅行に参加しました。参加した理由は、今まで日本を離れたことがなかったので、自分の目で海外の歴史や建築に触れたいと強く思ったからです。今回の研修旅行は、2月26日に日本を離れ、イタリア・フランスの2ヶ国を14日間で巡りました。特にイタリアはローマ・ヴェネツィア・ミラノ・フィレンツェの四都市を訪れました。印象深かったイタリアを中心に報告します。



滞在都市	ローマ	フィレンツェ	ヴェネツィア	ミラノ	モナコ ニース	パリ
日数	3日間	2日間	1日間	2日間	1日間	3日間

私にとって日本を離れて最初に訪れた国、イタリアに着いて、空港から街に飛び出すと、日本とは180°違う街並みにとても驚き、こんな素晴らしい街並みがあるのだと感動しました。普通の建物ひとつひとつもどこかおしゃれであり、街全体がひとつの芸術品のようでした。このように素敵な街に住んでいるからこそ、後世まで評価される素晴らしい絵画や彫刻、建築が生まれるのだと、ヨーロッパに降り立ってすぐに納得してしまいました。



スペイン広場（ローマ）

本場のチーズやパスタ、ジェラートは本当に美味しかったです。パスタの種類も豊富でラビオリやファルファッレ、イカ墨のパスタにも挑戦しました。特にチーズが気に入ってしまい、クロワッサンと一緒に毎日一回は食べていました。どの街にも街角にジェラート屋さんが多く、また味の種類も多いので、ついつい写真のようにダブルで楽しみました。イタリアの豊かな食文化も満喫しました。



ミラノのドゥオモも見学しました。完成までに500年という歳月をかけて建設された世界最大のゴシック建築と言われており、とても迫力がありました。今回は修復中で全てを見ることはできなかったのですが、一番高い位置で金色に輝くマリア像があったり、あらゆる所に彫刻が施されたりと細部に至るまで装飾が施されていて、宗教への思いの強さにとても驚きました。修復工事中の仮囲いとしての目隠しもヨーロッパらしく、美観への意識が高くおしゃれだと感じました。

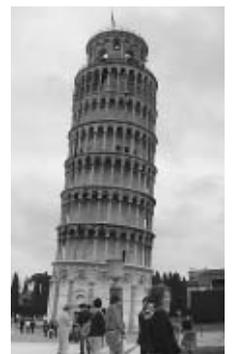
また、ミラノではレオナルド・ダ・ヴィンチの最高傑作と言われる「最後の晩餐」を鑑賞しました。またフランスでもルーブル美術館に行き、「ミロのヴィーナス」や「モナ・リザ」、「ナポレオンの戴冠」を鑑賞しました。最近ではテレビや本で見かけることが増えたレオナルド・ダ・ヴィンチの作品を実際に見ることができ、いろいろと言われている絵画の謎に触れた気がして楽しめました。建築だけではなく、有名な絵画や彫刻も見ることができて良かったです。

ピサでは、ガリレオ・ガリレイの実験でも有名なピサの斜塔を見ました。絶妙な角度で立ち誇っている斜塔にとても感動しました。建設時から地盤沈下が始まっていたようで、隣に立つピサ大聖堂もピサの斜塔側に傾いていました。斜塔を良く見ると、下から六層目で真直ぐにしようとしているのが分かります。

今回の研修旅行で最も惹かれた都市はフィレンツェです。フィレンツェの中心に立つサンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂から眺める風景は、オレンジ色と白色の建物がどこまでも続いていて、その先にはトスカーナの丘を見ることができました。建物と風土との調和がとれた拡



ミラノのドゥオモ



ピサの斜塔

がりのある景観のすばらしさに感激しました。また、ミケランジェロ広場から見る夜のフィレンツェも、昼間とは違った表情をしていてとても魅力的でした。控えめな街灯と少しだけライトアップされたサンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂とヴェッキオ宮殿が、フィレンツェをより美しい街並みに演出していました。

サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂は八角形の巨大なドームがとても印象的です。この巨大なドームを載せるのがとても困難で、二重構造の建築方法を用いて16年の歳月をかけて完成させたそうです。本や映画で見ていたイメージとは少し違っていた点がありました。それは壁の外装です。大聖堂の巨大なドームはルネサンス建築を思わせるのに、壁の外装はゴシック建築であったことに驚きました。教科書や授業だとなかなか理解しにくい部分も、実際に自分の目で見ることで、発見があったり、より興味が湧くものだと感じました。

イタリアの美しい街並みはこれからずっとこのままであり続けて欲しいと強く感じました。建物ひとつの単体でみたときには良くて、街としてみたときに調和が取れていないと何か違うように感じてしまいます。私が住む日本の街も無秩序に広がるのではなく、これからは街全体の調和を考えていくべきだと思います。



サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂

学校の研修旅行に参加するメリットは沢山あります。ベテランの添乗員の方が旅行中ずっと付き添ってくれて、現地の新しい情報を教えてくれます。また、なかなか関わることのない他学科の学生と学年を超えて交流することができます。今回の旅行で出会った学生とは旅行の後も親交があり、学内で挨拶を交わすなど交流は続いています。

「百聞は一見にしかず」のことわざどおりだと、今回ヨーロッパに行きとても実感しました。研修旅行に参加したことで、物の見方や考え方の視野が広がったと感じます。海外に出かけると日本を客観視する機会にもなり、改めて日本のよさにも気づきました。今回は巡ることができなかったヨーロッパの国やその他の地域にも行ってみたいと思うようになりました。初めて海外に行くきっかけ、つまり「はじめの一步」として、工学部主催の研修旅行に参加することは、ひとつの良い方法だと思います。



サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂から見たフィレンツェの眺め

## 学科トピックス

### ホテル工事現場を見学しました —建築施工Ⅰ授業の一環として—

6月20日(金)午前2回、28(土)午後4回の計6回、郡山駅北側に新築中のホテル工事現場を見学しました(参加学生約100名)。非常勤講師の倉持先生(鹿島建設(株)東北支店副支店長)による説明の後、現場所長から施工過程や見学する躯体工事の内容、さらに施工現場の安全性や正確性を確保するための工夫や努力、最後にベテラン所長からみた施工管理職の魅力を伺いました。実際の現場見学では、様々な業種の職人たちが常に確認しながら的確に作業している様子や、鉄筋を溶接して配筋し型枠が組み立てられていく状況、支保工が雑木林のように林立し型枠を支えている状況、打設したばかりのコンクリートからの発熱で蒸し風呂のように暑い状況など、参加学生にとって、現場を見たからこそ、より深く理解できる知識を得る有意義な機会となりました。(文責：市岡)



### 出村教授の研究グループが世界初 低温下での水の熱化学分解法による 水素製造技術の開発

出村教授と物質化学工学科の平山教授らによる研究グループは、環境技術開発ベンチャー企業の(株)ライプニュー(東京都)と産学連携により水素製造の新技術を開発しました。新技術では、独自に開発した特殊な触媒を使用することにより、熱化学分解法を用いる製造法としては低温とされる700℃の温度下で、水から水素を製造することが可能です。石油に代わる新しいエネルギーとして注目されている水素は、水素自動車や発電機、水素ボイラーなどに利用されています。水の熱分解には2500℃以上の温度が必要なため、これまで、いくつかの化学反応を組み合わせる900℃での水の熱化学分解による水素製造技術が開発されていますが、それよりも低温での水素製造を可能にしたものです。今回開発された新技術は、水素エネルギーが抱える高コスト問題を解決し、更なる実用化への道を拓いたといえます。

この新技術は工学部敷地内にある「郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター」で生まれました。土舗装材料や調質木材の開発を目的とした産学連携の中で、企業が持ち込んだ種(シーズ)を大学がコーディネートすることで、市場が求める製品を育てていくという、産学連携の新しい関係が築かれはじめています。

## 卒業設計報告

## 私の卒業設計 — 「脱縦割・横連続」 —

大学院修士課程1年 太田亮平

私の卒業設計を時系列で大きく次の三段階、第一期：制作段階から学内の卒業設計講評会・学外展示まで、第二期：卒業設計日本一決定戦（せんだいデザインリーグ2008）、第三期：レモン展（第31回学生設計優秀作品展）に分け、各々の段階で考え・感じたこと、また、それらの体験について今振り返って思うことを報告します。



選定した敷地現況

製作した卒業設計作品

まず第一期では、具体的な制作は10月頃からですが、その準備は4年生の前期から始まりました。制作に入る前は、研究室の先生や先輩・友人などと、「卒業設計とは何か」「自分は本当に何をしたいのか」「どのような敷地が適当か」など、色々なことを様々な角度から話し合いました。その結果、私の出身地でもある地元・福島で、全国的な知名度は高いが、現在は様々な問題を抱えている、飯坂温泉の再興を意図する設計・計画を試みることにしました。建物の老朽化と共に廃れていく温泉街の再生をテーマに、実際の敷地から空間イメージを構築していき、何度もスタディ模型を作り立体的なイメージを固めました。追い込みでは、早い段階からプレゼンテーションを考えつつ、3年生数名による模型制作などの手伝いが効率よく進めるよう心がけマネジメントしました。自分の世界に入り込み視野を狭くしがちでしたが、仲間や後輩との会話で、作品を客観視できたと思います。学内の卒業設計講評会では、幾つかの問題点を指摘され大変勉強になったと同時に、学外展示やレモン展出品作品に選ばれるなどと評価され、非常に嬉しかったです。

第二期に関しては、一生に一度の卒業設計なので、自分の作品をより多くの人に評価してもらいたいと考え、出展を決意しました。伊東豊雄氏が今回の委員長を務めた知名度の高い大会であり、全国の大学から約500作品以上の卒業設計自信作が出展されます。その中で同じ研究室の友人と共に本選進出100作品に選ばれたことは、日大工学部では初入選ということもあり自信になりました。また、審査員が議論しながら慎重に選出する最終選考進出者・ファイナリスト10名の次点（10名中1名でもプレゼンテーションできない場合における交代者）と主催者に伝えられ、嬉しくも悔しい思いで10名のプレゼンテーションを見ていました（つまり、結局プレゼンテーションする機会が巡ってきませんでした）。また、来場していた多くのメディアのうち数社から取材を受ける経験をし、その結果建設工業新聞・福島版に作品内容が掲載されたことや、後日、福島市役所や飯坂温泉まちづくり協議会

などから作品内容について問い合わせを受けたことは、地元・福島の問題点を挙げた作品に、意欲的に取り組んで良かったという実感がわいてきました。

第三期は、都内で行なわれる歴史と知名度のある卒業設計作品展で、他大学から選抜された卒業設計代表作品75作品との展示のみならず、立派な冊子にも作品が収録されたことは、自分の卒業設計の履歴がきちんと記録に残ることであり大変光栄でした。こちらも著名な建築家等が評価する選考会があり、残念ながら審査員賞やレモン画翠賞には選出されませんでした。学生運営ワーキンググループが主催するアーライブ来客票（展示会期間中の来館者による投票）では、投票される6部門のうち、「あなたのNo.1」「ベスト模型」「カッコイイ」の3部門で2位となりました。主に同世代から評価を受けたことは、第二期段階とは異なった意味で嬉しかったです（ちなみに、その他は「かわいい」「行ってみたい」「ベストレイアウト」の3部門）。特に、「ベスト模型」での2位は、喜びと同時に共に模型を制作した3年生への感謝の気持ちで一杯になり、少々恩返しのできた気がしました。

学外への出展経験を通じて、大学内だけではなく様々な評価軸で自分の作品を見てもらうことにより、より自分の分身ともいえる作品を客観視できるようになりました。将来建築設計者をめざす私の今後を考えると、これから多くの人の意見に触れ、また時間経過に伴い自分の考えや設計方法が変化する中で、この卒業設計作品が色々な意味で自分の定点となる大切なものであるように思います。卒業設計に真剣に取り組めた日々、多くの人たちに助けられ、様々な考え方の人たちから講評を受けた経験は、設計職を夢見るこれからの繋がる大きな経験になりました。卒業設計に取り組む後輩には、一生に一度の卒業設計を後悔しないよう、全力で取り組んで自分の定点を見つけるきっかけをつかんでほしいです。



第二期：日本一決定戦審査風景（伊東豊雄氏が審査する様子）



第三期：レモン展 審査風景（佐藤光彦氏が審査する様子）

## 学 術 論 文

\* 届け出があった記事を掲載

- ・齋藤俊克, 出村克宣, 浅里和茂, 「ビニロン繊維補強ポラスコンクリートの曲げ性状」, セメント・コンクリート論文集, No.61, pp.456-461, Feb. 2008.
- ・根本賢, 若井正一, 「学校における教室用机・いすの周囲に構成される動作スペースの計測研究」, 日本大学工学部紀要, 第49巻第2号, pp.11-16, Mar. 2008
- ・小堀まどか, 若井正一, 「能舞台における演者の姿勢と動作特性に関する人間工学的考察—観世流能楽師の所作と能演「鉄輪」を事例として—」, 日本大学工学部紀要, 第49巻第2号, pp.17-24, Mar. 2008
- ・日比野巧, 千葉正裕, 浅里和茂, 「細長い平面形を有する建物の立体振動解析—実コンクリート強度を用いた微動応答解析—」, 日本大学工学部紀要, 第49巻第2号, pp.25-38, Mar. 2008
- ・菊地弘悦, 藤井知明, 齋藤俊克, 浅里和茂, 出村克宣, 「軽量ポラスコンクリートの基礎的性質」, 日本大学工学部紀要, 第49巻第2号, pp.39-45, Mar. 2008.

## 研 究 発 表

\* 届け出があった記事を掲載

- 日本建築学会東北支部研究報告会 日時：平成20年6月7～8日 会場：弘前文化会館（青森県）
- ・個別要素法による歩行者の動線計画シミュレーション手法に関する基礎的研究 ○佐久間啓太, 倉田光春, 野内英治
  - ・自然ひび割れを有するモルタル供試体を用いた表面含浸剤の透水に対する抵抗性評価 ○藤井知明, 出村克宣, 橋本純
  - ・ビニロン繊維補強ポラスコンクリートの凍結融解抵抗性 ○有岡大輔, 齋藤俊克, 出村克宣
  - ・高強度材料を用いたRC造柱・梁接合部に関する実験（6）
  - その1 実験概要および実験結果— ○寺田健一郎, 鈴木裕介, Sanjay PAREEK, 倉田光春
  - ・高強度材料を用いたRC造柱・梁接合部に関する実験（6）
  - その2 実験結果— ○寺田健一郎, 鈴木裕介, Sanjay PAREEK, 倉田光春
  - ・ポリマーセメント系接着剤を用いたCFRP補強RC梁の曲げ・せん断補強効果に関する研究
  - その1 実験概要および実験結果— ○岸哲也, 鈴木裕介, Sanjay PAREEK
  - ・ポリマーセメント系接着剤を用いたCFRP補強RC梁の曲げ・せん断補強効果に関する研究
  - その2 実験結果— ○鈴木裕介, 岸哲也, Sanjay PAREEK
  - ・人工加振による中高層純鉄骨フレーム構造物の振動応答性状 ○伊藤禎二, 倉田光春, 野内英治
  - ・せん断の影響を考慮した梁の弾塑性振動解析に関する研究 ○杉山和隆, 倉田光春, ガン・ブントラ
  - ・1自由度系への縮小・復元法に関する基礎的研究 ○渡辺穂, 倉田光春, ガン・ブントラ
  - ・せん断応力・せん断変形を考慮した梁の形状解析 ○添野祐平, 倉田光春, ガン・ブントラ
- 人間・環境学会第15回大会 日時：平成20年5月10日 会場：東京大学工学部（東京都）
- ・階段空間における印象的なシーンの定量的分析 ○中山誠健（東京電機大）, 積田洋, 浦部智義

■(社)日本建築学会東北支部平成20年度役員に、代議員に狩野教授、常議員に松井准教授が当選された（任期2年間）。

■出村教授と研究グループは、3月18日、世界で初めて低温下で水から水素を製造することに成功し、一般に公開した。

■パリーク准教授と鈴木裕介院生は、3月、日本コンクリート工学協会の機関紙「CONCRETE JOURNAL, vol.46, No.3」に「第8回 連続繊維補強コンクリートに関する国際シンポジウム（FRPRCS-8）」と題して寄稿された。

■濱田教授は、3月下旬、日本大学海外派遣研究員として半年の予定で出発された。

■狩野教授は、須賀川商工会議所からの依頼により「須賀川市中心市街地裏路地景観形成事業策定報告書」作成に協力し、3月28日、地元で報告した。

■浅里教授は、4月1日、株式会社全国鉄骨評価機構より鉄骨工場性能評価委員を委嘱された。

■出村教授は、4月1日、日本大学工学部長に就任された（任期3年間）。



## 教室ニュース

■土方准教授は、4月1日、福島県より福島県建築審査会委員を委嘱された。

■浦部専任講師は、4月1日、平成20年度日本建築学会建築計画委員会文化施設小委員会委員を委嘱された。

■土方准教授と市岡専任講師は、5月12日、福島県より福島県景観審議会委員を委嘱された。

■土方准教授は、5月22日、郡山市より郡山市開発審査会委員を委嘱され、会長に選出された。

■浦部専任講師は、6月1日に行なわれた、福島県建築設計協同組合「福島県看護協会会館・看護研修センター」設計・監理業務委託コンペの審査委員を委嘱された。

■松井准教授は、6月2日、郡山市障がい者福祉プラン策定委員会委員を委嘱され、委員長に選任された。

■土方准教授は、6月6日、福島市より福島市立湯野小学校耐震補強実施設計及び建替設計者選定審査委員会委員を委嘱された。

■土方准教授と市岡専任講師は、6月30日、郡山市より郡山市景観づくり審議会委員を委嘱され、土方准教授は会長に選出された。

■人事：4月1日付で、浅里和茂教授とサンジェイ・パリーク准教授が昇格された。

